



# お知らせ

News



## 【文科省 A P 関連】「アクティブラーニングと学修ポートフォリオ」セミナー開催しました

2014年12月16日

11月19日（水）に、比治山大学高等教育研究所主催、比治山大学「質的転換加速化本部」共催の「アクティブラーニングと学修ポートフォリオ」をテーマとした高等教育研究所第1回セミナーを開き、広島大学の古澤修一教授、隅谷孝洋准教授、金井裕美子氏にご講演をいただきました。

ここではその一部を紹介し、関心のある方々と共有したいと思います。

古澤修一先生は、広島大学大学院生物圏科学研究科の教育記録システムとして運用されている「eラーニングポートフォリオ」をご紹介くださいました。このシステムは、学生の学習過程や学習成果に関する資料・情報をWeb上に記録することができ、講義の選択状況、研究の進捗状況、論文の準備状況などを、学生と指導教員がWeb上で常に確認することができます。

また、学習の初めに、指導教員の指導を受けながら、自分自身の修了時点の到達目標を設定し、それぞれのステップごとに、最初の目標に対する到達度の省察を行い、それに対する教員のコメントも記録されていきます。

さらに、到達目標に至る到達状況を「学士力」と「社会人基礎力」を融合させた独自の評価基準(ルーブリック)で表現します。これによって、PDCAを意識したステップで教育プログラムの内容と実施体制を強化するシステムです。

つづいて隅谷孝洋先生には、この「eラーニングポートフォリオ」の主な機能についてご紹介いただきました。オープンソースのMaharaのカスタマイズによって開発されたこのシステムでは、テンプレートを媒体にして学生と指導教員がコミュニケーションを行います。つまり、履修計画、研究計画、研究活動状況などの具体的な内容(文書、写真、動画など)を入力するあらかじめ決められたテンプレートを学生に提供し、学生は適宜入力していきます。これらの情報は指導教員と共有され、研究指導に活用される仕組みになっています。また、これを利用して、学生は自己分析や自己PRを行うことができます。

最後に、金井裕美子氏からは、「eラーニングポートフォリオ」の活用として、「フェニックスリーダー育成プログラム」という分野横断的統合型グローバルリーダー(フェニックスリーダー)の育成を目的とするプログラムへの適用についてご説明がありました。ここでの「eラーニングポートフォリオ」は、つぎのように活用されているとのことでした。

このプログラムに入学した大学院生の学修状況を可視化し、学修の成果及びその根拠を蓄積する

プログラム担当教員が大学院生の学修状況を理解し、時宜を得た適切な指導を行う

博士論文研究基礎力検査において、単位修得状況とその理解度及び目標達成度を審査する

ここでは、大学院生に対する研究指導を中心とした「eラーニングポートフォリオ」を構築されていますが、一部の学部でも運用されているとのこと。いずれにしても、学生の学修成果の蓄積・共有・活用について、明確なポリシーに基づいて運用されていることがわかります。

本学でも、全学レベルで、指導教員と学修情報を共有しながら、学生自身が学修活動のPDCAを回すことができるように、学生情報システム(Hi!way)でどこまで支援できるかを検討しています。

学修ポートフォリオの構想に関して今回のセミナーから大きなヒントをいただきました。あらためてご講演者の方々に感謝申し上げます。



もどる

---

**比治山大学・比治山大学短期大学部** 〒732-8509 広島市東区牛田新町4丁目1-1

[サイトポリシー](#) | [個人情報保護方針](#) | [サイトマップ](#)

Copyright © HIJYAMA UNIVERSITY. All rights reserved.